

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：企業立地対策費

事業名 テクノプラザものづくり支援センター修繕工事費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部産業デジタル推進課 IT拠点活用推進係 電話番号：058-272-1111(内3723)

E-mail：c11356@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 35,494 千円 (前年度予算額：27,634 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	27,634	0	0	0	0	0	0	21,800	5,834
要求額	35,494	0	0	0	0	0	0	23,500	11,994
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

テクノプラザものづくり支援センター・本館(旧：科学技術振興センター)は竣工後27年、第一別館(旧：アネックステクノ2)は25年、第二別館(旧：人材開発支援センター)は20～22年を経過し、各施設において経年劣化等に伴う設備の更新や修繕が必要となっている。

なお、指定管理制度は、本館のみ平成18年に導入を開始し、令和6年度以降は、本館、第一別館、第二別館及びベンチャーファクトリーの4施設を一体で指定管理者が管理している。

(2) 事業内容

① 工事請負費

- ・本館 給排水ポンプ類更新工事
- ・本館 床下防水工事
- ・第一別館 ガスヒートポンプ室外機部品更新工事
- ・第二別館 自動火災報知設備等更新工事

② 工事委託料

- ・本館 プラザホール設備更新工事実施設計業務

③ 業務委託料

- ・本館 中央監視装置部品更新業務委託
- ・テクノプラザものづくり支援センター工事等の技術支援業務委託

(3) 県負担・補助率の考え方

本施設の修繕については、指定管理と締結している協定により費用負担区分を規定。

- ・ 1 件につき 60 万円未満の修繕：指定管理者が負担
- ・ 1 件につき 60 万円以上の修繕：岐阜県が負担

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
工事請負費	21,908	[長寿命化]本館 給排水ポンプ類更新工事 16,221
		[長寿命化]第二別館 自動火災報知設備等更新工事 ※法定設備のため起債は「一般」 2,359
		[長寿以外]本館 床下防水工事 1,960
		[長寿以外]第一別館 ガスヒートポンプ室外機 部品更新工事 1,368
工事委託料	6,638	[長寿命化]本館 プラザホール設備更新実施設計 5,352
		[長寿以外]テクノプラザ工事等の技術支援業務委託 ※起債対象外 1,286
業務委託料	6,948	[長寿以外]本館 中央監視装置部品更新業務委託 ※起債対象外 6,948
合計	35,494	
(長寿命化)	23,932	
(長寿以外)	11,562	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県デジタル・トランスフォーメーション推進計画

Ⅲ 各分野のDX

10 産業・労働

- (1) デジタル化の段階に応じた支援によるデジタル技術活用の裾野拡大
- (3) デジタル産業の強化・誘致推進

【参考】岐阜県県有建物長寿命化計画の対象建物の範囲

延面積が500㎡以上の建物を対象とする。

(以下は含まない)

- ・解体予定又は用途廃止後、使用の予定がない建物
 - ・特定財源の範囲で修繕を行っている建物
 - ・別途、長寿命化計画を策定済みである県営住宅及び公園施設
- ※延面積が500㎡未満の建物であっても一体的な修繕等を行うことが施設全体の長寿命化に資するものは対象。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

経年劣化等に伴う設備の更新及び修繕が年々増加している中、法令遵守、安全確保、不具合時の利用者影響度などから優先順位を付け設備の更新や修繕を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率

○指標を設定することができない場合の理由

施設設備等の更新工事であり、具体的な達成目標を設定できない。

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和5年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和6年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価) 3	入居者及び利用者に不利益を与えないよう、不断の施設維持が必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	必要最低限の修繕により施設の維持管理を行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価) 2	中長期保全計画を作成し、また、指定管理者と連携を密にとり、優先順位の高く必要な修繕を実施し、経費の節減を図っている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 中長期保全計画で策定した修繕は、大規模な修繕を中心に先送りされ、機能維持が難しい設備も出てきており、待ったなしの段階である。施設運用面での課題や大規模設備の状況把握を行い、計画的に施設運営や修繕を実施する必要がある。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 施設の利用率や不具合の影響度などから優先順位を決め、順に維持する。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	[長寿命化]第二別館 自動火災報知設備等更新工事 ※法定設備のため起債は「一般」
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	[長寿以外]第一別館 ガスヒートポンプ室外機 部品更新工事